デジタル版
2025年
05月29日号
Vol. 160

成岡マネジメントオフィス事務所通信

NMO OfficeLetter

ニデックが牧野フライスの買収計画を断念！

小型モーター最大手のニデックが仕掛けていた工作機械大手の牧野フライスへの買収案件を断念すると発表した。子会社化する目的で株式公開買い付け（いわゆるTOB）を撤回する。取締役会で決定し、買収案件から完全に手を引く。ニデックは牧野フライスが東京地裁に申し立てた買収対応措置の差し止め請求を7日に却下されたことが直接の原因。今回のTOBは事前に交渉を一切行わない交渉経過で、世間の注目を集めていた。過去に多くのM&A買収案件を成功させてきたニデックだったが、今回初めて買収戦略が頓挫した。

＜解説＞東京に本社がある牧野フライスは高度で精密な切削装置の製造を行っている。創業80年以上の名門企業だ。ニデックは従来から工作機械分野の強化を目指しており、多くの工作機械製造メーカーを買収し、グループ傘下に収めてきた。今回、昨年12月に事前の打診なくTOBを仕掛けたが、これが牧野フライスの大きな反発を招いた。牧野フライス側はニデックの買収に対抗するため、数社のスポンサーに打診し、複数のファンドから提案を受け、ニデックの買収案に対抗する構えを見せていた。ニデックは従来のM&Aでは、そのほとんどの案件を成約し、グループ内企業として子会社化したり、吸収合併し業容の拡大を果たしてきた。今回も事前の打診も一切なくTOBを仕掛けたことで、M&Aの成約に自信があったと思われるが、初めて戦略的に躓いた。これほど激しい抵抗があるとは想像できなかった。牧野フライスは対抗措置として新株の発行を意図し、ニデックが買収した株式を希釈し薄める効果をねらった。これをニデック側は違法として東京地裁に差し止め請求の仮処分を申請したが、却下された。これ以上の対抗は損害を招く恐れがあると判断し、今回の買収断念となった。M&Aの戦略からすればニデックの言い分が合理性に欠けるとは言い難いが、相手側の牧野フライスの経営状態が非常に良好なので、牧野フライス側の言い分が認められた。双方の合意のないM&Aは、その後に大きな禍根を残すことが多い。企業文化の全く異なる企業同士のM&Aは、いわば結婚のようなものでやはり双方の合意のもとに進め、ハッピーな未来が描けないと、結婚した後すぐに成田離婚に至る可能性が高い。

BUSINESS MANAGEMENT&COORDINATION
株式会社成岡マネジメントオフィス
〒616-8104　京都市右京区太秦下刑部町170
プレサンスロジェ太秦天神川駅前613
TEL:075-366-6611　FAX:075-366-6100　info@nmo.ne.jp

Copyright (C) Naruoka Management Office. All rights reserved.